



1年間ご購入ありがとうございました！2008年もよろしくお願いたします

……編集スタッフ一同



鷲塚針原駅（えち鉄）

今後の予定

- 12月16日（日）自転車部会
- 12月17日（月）
第1回路面電車サミット実行委員会
- 1月16日（水）IRE LRT研究会
- 1月18日（金）ROBA例会

活動報告

- 11月23日 モビリティウィーク講演会
- 26日 福井市地域生活交通活性化会議
- 28日 福武線利用促進市民フォーラム
- 12月 2日 福井市まちづくり交歓会
- 12日 IRE LRT研究会
- 14日 ROBA 12月例会

ゆうじんの部屋 書籍紹介

「環境リスク論」 中西準子 岩波書店

2300円＋税 ISBN4-00-002818-9 C0036

インターネット書店に勧められるままに買った1995年の本でした。しかし、未だに主張の新鮮さは失われていません。異なる施策の優先順位を損失余命と費用の比較で考えようというのは、微量有害物質の規制等には有効な理論であります。本の端々にも交通事故の話が出てくるように、交通の分野でも考えていいのではないかと思います。

一番心に残ったのは、「自ら選択するリスクは押しつけられるリスクの1000倍まで許容できる」という部分です。交通事故の危険も、運転者は自らリスクを覚悟で選んでいるのであまり問題にしないが、鉄道事故での死傷や、歩行者のもらい事故は、件数が少なくても大きく問題にされる理由もよく理解できるとともに、被害者の立場に立ったリスクへの負担の再分配を行政が行わないと、多少危険でも運転のできる人は車を選んでしまうのも理解できるのである。

公害被害のように、環境リスクで一人の人間の余命を10年縮むのを防ぐために、何千万、何億の金を使うことが正当化されている一方、交通事故減少の便益は、交通工学の領域では、遺失利益から計算されます。交通政策の目的関数を、経済的利益から生命リスクの軽減に変えた時、交通政策がどのように変わるか。また、反クルマ論者とクルマ論者の妥協点を探すためにも有益な理論を提供してくれる書だと思ふ。

（財）国土技術研究センター調査第3部長 美濃部 雄人 Minobe Yujin

平成19年度 第2回福井市地域生活交通活性化会議

日時：平成19年11月26日 10:00～11:45

場所：福井市役所 8F 会議室

委員：座長 川本福井大学准教授

自治会連合会、連合婦人会、老人クラブ連合会、PTA 連合会、ROBA、福井鉄道自動車部、京福バス、まちづくり福井、光タクシー、えちぜん鉄道、県バス協会、県交通運輸産業労働組合協議会、福井運輸支局、県・総合交通課、市・交通政策室

目的：平成18年10月度道路運送法改正により、地域の関係者が地域交通を検討する「地域交通会議」のしくみが導入。それに従い多様なニーズに的確に対応した運送サービスを提供し、活力ある地域社会を実現すること。（主にバス交通に関する会議）

議事：1、 運輸局の許可を要する件

許可案件 すまいるバスルートを利用した深夜路線バスの運行（京福バス）

すまいるバスの南ルート（木田・板垣方面）と東ルート（城東・日之出方面）の2運行系統を京福バスが路線バスとして20年1月～3月の試験運行。

運賃は200円均一（小児・身障者100円）

予定運行時刻 南ルート：駅前商店街 22:00 22:30 23:00 発

東ルート：駅前商店街 22:15 22:45 23:15 発

運行日は毎週金曜日のみとする。（祝日は運休）

許可案件 福井市内と一乗谷朝倉氏遺跡周辺地区への観光客の輸送について（しろはと交通）

朝倉氏遺跡周辺への移動手段の多様化をはかり利便性向上に資する。福井市中心部（ホテル集積地域）から朝倉氏遺跡一帯を結ぶジャンボタクシーによる区域運行型運行である。8:30から13:30までの間毎時1時間毎で旅客の要望する時間。1運行4時間程度。旅客がいないときは運行しない。

運賃は大人 3,600円 小人 1,800円

20年4月5日～20年10月26日まで試行運行

2、 協議事項 路線バスの活性化について

（東西側幹線軸対策）

鮎川線の利便性活性化

（課題）パーク＆バスライド駐車場の整備

内田の意見として、道の駅ならぬ「バスの駅」という考え方を紹介した。ちょっとした休憩所や買物ができるスポットとして活用。駐輪場も設けることを併せて提案した。

越廼～鮎川区間の公共交通空白地帯対策

目下、空白地帯解消に向けて対応中

JR 越美北線の利用活性化

内田の意見として、土、日、祝日の乗車率は高くとても座れないほど賑わっている。本来、定期路線で利便性向上を図るべきであり、運行本数の増大を JR に求めてはいかがか。

(高齢者、通学者の交通移動支援)

高齢者のバス利用対策

(課題) 高齢者定期の活用

(課題) 高齢者免許返戻の支援

通学者のバス利用対策

(課題) 通学フリー定期の活用

内田の意見として、長期定期(1年、2年、3年)の発売をしてはいかがか。1ヶ月、3ヶ月定期を購入しても、どうせ数年は定期を購入する。であれば3年定期でも一時払いでなく月払いの支払い方法を検討してはいかがだろうか。負担感が少なく、それでいて3年の定期ユーザーの確保ができる。

(モビリティマネジメント、情報発信)

鮎川線等幹線沿線における MM の実施

公共交通の情報発信

市政情報媒体を活用した情報提供、学校、公民館、イベント等での情報提供

このなかで、福井市事務局は来年10月開催予定の全国路面電車サミット福井大会の紹介とともに MM としての役割を担っている旨の紹介がありました。

(報告) ROBA 内田桂嗣

公共交通フォーラム 福武線利用促進市民フォーラムに参加して

このフォーラムは、11月28日(水)に越前市福祉健康センター4階多目的ホールにおいて、午後7時から開催されました。会場が満員御礼になり、立ち見が出るほど盛況で、350人の参加がありました。若者から高齢者まで、多世代の人たちが公共交通について熱心に話を聞いていました。

プログラムは、越前市奈良市長の福武線によるまちづくりの方針の後、福井鉄道から今枝鉄道部長が現状を報告、えちぜん鉄道から島計画部長がえちぜん鉄道存続運動と活性化の取組みを発表、福井大学川上教授がコーディネーター、ROBA高橋さん等がパネラーとしてパネルディスカッションが行なわれました。意見交換の内容は勿論「電車は大事だ!」と言った内容ですが、これを少し紹介します。



- ・福井市内に通学する子供のお父さん：電車は定時性があり、事故の心配がないので、安心して子供を学校に通わせることができる。福鉄沿線は高校が多く、生徒達の足としてとても重要だと思う。私は車窓からの眺めが好きで、電車は福井の文化だと考える。これを採算性だけで廃線と決めるのはおかしい。
- ・福鉄に乗って病院に通勤するお母さん：車の免許を持っていても車で通勤したことがなく、電車の時刻表に合わせた生活のリズムが出来上がっている。高齢の患者さんには、病院への送迎を家族に頼むのは悪いので、自立したいと考える人も多くいる。私が将来年をとっても自立できる手段、病院に通う足として電車はとても大事。
- ・老人クラブの会長さん：高齢者は福鉄の状況を知らない人が殆どで、老人クラブのサロンで出る意見として、低床になった電車の横揺れが大きくて気分が悪くなる時がある。高齢者になるとトイレが近くなるので、駅にトイレが欲しいなどの意見がある。

その他、会場に来ていた方は福鉄の現状についてほとんど情報がない中で、福鉄の状態を突然たたきつけられて困惑した思いや、電車は無くて問題ないと思える両極端の意見を持った人など、それぞれの思いを胸にこのフォーラムに参加されていたことでしょう。



このフォーラムを通して越前地域がどこまで頑張れるか、また、鯖江市の取り組みはどうなるのか、福井市の沿線自治会で電車活性化の動きが見られますが、この芽が大きく育って欲しいと思います。ROBAを含めて様々な人が色々な形で協力し合うことで、「自分たちのまちづくりに前を向いて進んでいく時がきたのだろう」という思いでいっぱいになりました。

(報告 畑)

「まちづくりの扉を開こう」～まちづくりって何？協働って何？～

(文：塚谷 康夫、写真提供：福井県子ども NPO センター)

冷たい時雨がときおり降りしきるなか、福井市と福井県子ども NPO センター共同主催の福井市まちづくり交歓会が開催されました。会場は福井大学の総合研究棟 13 階(天気によければ眺望が素晴らしい！)です。

集まったのは、主に「まちづくり」に関わる NPO や市民団体・公民館関係の人たち。もちろん、ROBA も「まちづくり」に関わる NPO ですから、四人(内田、高橋、清水、塚谷)が参加しました。

開会の挨拶の後、表現活動グループ「What 's トントントン」による寸劇『～“ハッ”として、“グッ”ときて、“パッ”と目覚めるまちづくり ～』が上演されました。定年退職したお父さんが暇をもてあます毎日を過ごしていたところ、ふとしたきっかけから公民館のパソコン講座の講師をすることになり、そこから防犯活動などの「まちづくり」に関わっていくことになる、という内容です。出演者がかなり長い台詞を覚えて(アドリブで?)演じていたので、アマチュア劇団とは思えないほどの出来栄の寸劇でした。

その後、宇都宮大学の広瀬隆人教授(元行政マンだったそうです)による講演。曰く、「まちづくりは組織化が大事だが、一人ひとりが無理なく参加できるためにはできるだけ多くの人を集めることが重要。そのためには、他の人を出来るだけモチ米のようにくっつけて連れてくる“人を集める人” = “モチゴメーター”となる人を探してこないといけない。」

その後のワークショップでは、班ごとに分かれて人間関係構築のためのスキルを実践。行きつけのお店を紹介しあったり相手を褒める訓練をしたりと、“まちづくり”という表題とどこが関係あるの?と少々面食らったワークショップとなりました。教授によると、「強制的ではない方法で人を集めるには良好な人間関係を構築することが大事で、そのためにはコミュニケーションの方法が重要。職場の上下関係にありがちな“叱って強制させる”方法ではなく“褒めて長所を伸ばす”ことや、行きつけの店や好きな食べ物など相手と自分の共通点を見出すことによって“仲間意識”を高めていくことなど、人間関係構築にはスキルがある。」とのこと。



昼食後、まちづくりに関わる人・団体を会場内から無作為に選び、その所属団体のことを根掘り葉掘り聞き込む事例調査となりました。所属団体の構成人数や所属メンバーの年齢・身分などを細かく聞きだして、ホワイトボード上に書き出し、その団体の特徴をとらえます。普通の人なら嫌がるようなことまで聞き出すのですが、そこは“褒める”技術がある教授のことで、ROBA もその標的になり、たじたじになりながらも教授の質問に答えます(左の写真)。

最後に行政と市民団体の協働について。行政は市民ボランティアを無償の労働力としてとらえてはいけません。また、NPO も役所化してはいけません。協働を成功させるには行政が積極的に種をまき、団体を立ち上げた後も書類作りなど市民が苦手な部分は行政がフォローすること。いきなり大きな事業をせず、小さな“成功体験”となることを積み重ねて、協働のノウハウを習得させることで大きな目標に向かえることの指摘がなされ、締めとなりました。

照ちゃんの気になる風景 part7 ~ 阪堺電車私情レポート ~



住吉駅付近 / 右奥が天王寺駅前方面

12月のとある日曜日、通天閣西にある恵比寿町駅から終点の浜寺駅前に向けて出発。一両編成の小さな車両は東玉出から一般道に入り車と並行して走ります。住吉駅手前で恵比寿・浜寺駅前線と天王寺駅前・住吉公園線の線路がクロスするのを発見して(写真)変集長は少し興奮気味。

車内を観察すると降車ボタンを発見(写真)。降車ボタンを押さないと通過するのか?と思って観察していたら押さなくても各駅に止まり降車していました。では、降車ボタンは何のためにあるのかいまだに謎です。



住吉駅付近



降車ボタン

作 / 漆崎 耕次

編集後記・・・編集委員より一言

林(変集長)

「美濃部さん、お世話になりました！」

塚谷(副編集長)

「大学の同期生が書いた本で勉強しています」

内田(発行責任者)

「今年も、もう終わりです。また一つ年をとった！」

事務局 特定非営利活動法人

ふくい路面電車とまちづくりの会(ROBA)

910-8031

福井市種池1丁目1905-3

TEL: 0776-25-7968

e-mail: roba@mbh.nifty.com

URL: <http://roba.cocolog-nifty.com/roba/home/>